

『デザインした壺の中に、空想の生物を描く』

千葉県立市川昂高等学校

教科：美術Ⅰ 2単位 28名 授業時数：50分の2限連続授業×9回

この授業で付けたい力

円筒形を描く手順に沿い、自在に壺やグラス等を描く力

自由な発想で空想画を描き、ペンで模様を描き込むことにより、写実的な表現をする力

透明水彩絵の具を使って描写をする力

アクリルガッシュ平塗りの技法を使って彩色する力

課題設定の理由

自由な発想で空想画を描くとき、様々な制約は、かえって作品に深い奥行きを持たせることが多い。壺の中の水の中、という制約を利用し、生徒一人一人が工夫のある作品を制作するのを期待した。

デッサンで幾何形体の練習をしたことが、作品の制作を容易にするという体験を通し、基礎的な練習に意味のあることを実感させたい。

課題の流れ

前回の授業の円筒形の描き方の学習を踏まえて、中心線や楕円を意識して、オリジナルの壺をデザインする。その際、壺の中が画面になるので、ボリュームのあるデザインをするよう心掛ける。(100分)

壺の中に描く空想の生物のアイデアを数多くスケッチする。(100分)

アイデアスケッチの中から、形態の良いものを選び、細部の工夫をする。(100分)

完成したアイデアスケッチを壺の中に鉛筆で下書きする。(200分)

下書きの線を生かしながら、壺の中を透明水彩絵の具で彩色する。(100分)

壺の中が引き立つよう、鈍い色彩を使い、周囲をアクリルガッシュ平塗りで彩色する(100分)

透明水彩の上から、質感、立体感等を表現するよう、ペンで模様を描く。(100分)

できあがったお互いの作品を鑑賞し、自分の工夫したところを発表し、友人の作品について感想を書く。(100分)

観点別評価

1. 美術への関心・意欲・態度

壺のデザイン、中に描く空想画、彩色、ペン画,の一連の作業に対して、多くの生徒が関心を持って、主体的に独創性の感じられる作品を作ろうと取り組むことができた。

2. 発想や構成の能力

壺の中の水の中に棲む生き物、という制約の中で、一人一人が想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現をすることができた。

3. 創造的な技能

多くの生徒が、この単元の学習を通じて、円筒形の描き方、空想画の描き方等の技能を身につけ、主題に合った表現方法を工夫して表すことができた。

4. 鑑賞の能力

一人一人描くものは違っても、個人が工夫をした作品を生み出せることに理解を深め、その良さを多様な視点から味わうことができた。